

| | |
|----|----------------|
| 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|----|----------------|

| | | | | |
|----------------|-------------|-----|--------|-------------|
| ○事業所名 | | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年11月20日 | | ～ | 2026年1月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 18名 | (回答者数) | 12名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年11月20日 | | ～ | 2025年12月10日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7名 | (回答者数) | 7名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年2月10日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 専門職（主に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）や保育士による支援 | 専門職しかできない、評価・治療・支援の提供を意識している。保護者が望む事も専門職ならではの部分も多い。評価を定期的実施することで、利用児の状況や成長を適宜理解できる仕組みを構築している。 | 必要備品の購入、知識の共有、技術力を高めることでさらに充実した支援になると思われる。定期的な社内研修は実施しているものの、その活用は個人の理解力によりばらつく。全員が一定の理解で支援ができるよう定期的な共有を図っていきたい。 |
| 2 | 利用児や保護者ニーズに合わせて、個別活動と集団活動の提供が可能 | ニーズに対して柔軟に対応ができること。また、必要に応じて個別・集団活動の両方を提供し、個別で出来たことを集団に般化するなどの支援提供も可能である。 | 個別でしている事を適切に情報共有し、集団を担当するスタッフが応用しやすい形で繋いでいく必要がある。現在も、周知徹底しているが、個別でしていることが必ずしも集団に応用できるものばかりではないため、連続性を意識できるとより良いと感じている。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 支援提供において個人間でのばらつき | (一定数生じ得ることではあるが) 小児領域の経験年数が浅く、経験の長さにより支援提供の内容や程度にばらつきが生じている。 | 経験がある職員が個別に支援に入ることや観察をしながら指導を行うことで、技術的に統一した支援を出来るようにする。また、同様もしくは類似した支援になることで、一定基準の支援提供を行うことができる。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |